中国のプロレタリア文化大革命

（第八集）

北京　外文出版社

中国のプロレタリア文化大革命

（第八集）

外文出版社
北　京

出版者のことば

本書はこれまで『中国の社会主義文化大革命』という書名で出版されていましたが、第八集からは『中国のプロレタリア文化大革命』と改めて出版します。

目次

全国各地から上京した革命的教員・学生と会見するための集会における林彪同志のあいさつ……（一九六六年十一月三日）……5
毛主席に代表されるプロレタリア革命路線の勝利……『紅旗』社説（一九六六年第十四号）……10
新たな勝利をたたかいとろう……『紅旗』社説（一九六六年第十五号）……16

全国各地から上京した革命的教員・学生と会見するための集会における林彪同志のあいさつ

（一九六六年十一月三日）

学生のみなさん、同志のみなさん、紅衛兵の戦士のみなさん

プロレタリア文化大革命の新たな高まりが全国的にもり上がっているとき、みなさんは、偉大な指導者毛主席にたいする限りない熱愛と限りない忠誠の心をいだいて、毛主席に会見し、同時に革命の経験を交流するために、北京に来ました。わたしは、毛主席に代わり、党中央を代表して、みなさんにもっとも熱烈な歓迎の意を表します。

毛主席は、きょう、みなさんとの会見をひじょうに喜んでおられます。ここ二ヵ月余りの間に、毛主席は、全国各地から来た革命的教員・学生、紅衛兵と、国慶節を含めて、六回も会見されるわけです。毛主席は、もっとも偉大なプロレタリア革命家であり、いつも大衆とともにあって、十分に大衆を信頼し、大衆と心を一つにし運命をともにし、全身全霊をかたむけて革命的な大衆運動を支持されています。毛主席は、全党の同志たち、若い世代のために、もっとも輝かしい手本をうちたてました。

現在、プロレタリア文化大革命の情勢は、ひじょうにすばらしいものです。きわめて大規模な大衆運動がすさ

まじい勢いでもり上がり、日一日と深まっています。社会全体の様相にも、人びとの精神の様相にも、それぞれ大きな変化がおこりました。偉大な毛沢東思想は、いっそう広まり、いっそう深く人びとの心に浸透しています。毛主席の「革命に力をいれ、生産をうながそう」という呼びかけのもとに、文化大革命は、人びとの思想の革命化をうながし、工農業生産と科学技術の飛躍的発展をおしすすめました。さいきんのミサイル核兵器発射実験の成功は、毛沢東思想の偉大な勝利であり、プロレタリア文化革命の偉大な勝利であります。

党の第八期中央委員会第十一回総会は、毛主席に代表されるプロレタリア革命路線の勝利を告げ、ブルジョア反動路線の破産を宣告しました。ここ二ヵ月余りの間に、毛主席の正しい路線は、広範な大衆の前に明らかにされ、広範な大衆に把握されて、誤った路線にたいする批判がくりひろげられてきました。国家の大事に関心をよせようという毛主席の呼びかけは、ほんとうに、広範な大衆の行動になりました。これは実にすばらしいことです。これはプロレタリア文化大革命を最後までやりぬくための重要な保証です。

毛主席の路線は、大衆に自分で自分を教育させ、自分で自分を解放させる路線であり、まず「敢然」ということを念頭におく路線であり、大胆に大衆を信頼し、大胆に大衆に依拠し、大胆に思いきって大衆を立ちあがらせる路線であります。これは党の大衆路線を文化大革命のなかに運用し、新たに発展させたものであります。これはプロレタリア文化大革命の路線であります。

ブルジョア路線は、大衆路線に反対するものであり、大衆が自分で自分を教育し、自分で自分を解放することに反対する路線であり、大衆をおさえつけ、革命に反対する路線であります。このブルジョア反動路線は、闘争のほこ先を、資本主義の道をあゆむ党内の一握りの実権派と社会の妖怪変化にむけるのではなく、反対に、革命的大衆にむけ、さまざまな方式で大衆をそそのかして大衆とたたかわせ、学生をそそのかして学生とたたかわせています。

毛主席のプロレタリア革命路線は、ブルジョア反動路線と絶対にあいいれないものです。ブルジョア反動路線を徹底的に批判し、この路線の影響をとり除かないかぎり、毛主席の路線を正しく、完全に、徹底して実行することはできません。

毛主席の正しい路線にみちびかれて、わが国の広範な革命的大衆は、プロレタリアート独裁のもとで大民主を発展させる新たな経験を生みだしました。このような大民主とは、ほかでもなく、党がなにものも恐れることなく、大鳴、大放（訳注＝大鳴、大放はともに、大いに意見をのべること）、大字報、大弁論、大交流などの方式を広範な大衆に運用させて、党と国家の各級の指導機関、各級の指導者を批判させ、監督させることです。同時にそれは、パリ・コンミューンの原則にしたがって、人民の民主的権利を十分に実現することです。こうした大民主がなければ、ほんとうのプロレタリア文化大革命をおこすことはできず、人びとの魂の深部にふれる大革命を実現することはできず、プロレタリア文化大革命を深く掘りさげて徹底させることはできず、修正主義の根をとり除くことはできず、プロレタリアート独裁を強めることはできず、わが国が社会主義、共産主義の道にそって前進するのを保証することはできません。このような大民主は、毛沢東思想を広範な大衆と結合させる新たな形式であり、大衆が自分で自分を教育する新たな形式であります。このような大民主は、プロレタリア革命とプロレタリアート独裁にかんするマルクス・レーニン主義の学説にたいする毛主席の新たな貢献であります。

国際的なプロレタリアート独裁の歴史的経験が証明しているように、このような徹底的なプロレタリア文化大

革命をおこなわないならば、また、このような大民主を実行しないならば、プロレタリアート独裁は弱まり、変質し、資本主義がさまざまな形式で復活し、搾取階級がふたたび人民の上にのさばることになるのです。

このような大民主は、指導者と大衆のあいだで徹底的に実行されなければならないだけでなく、大衆のなかでも、大衆相互間でも、完全に、徹底的に実行されなければなりません。大衆のあいだに、このような大民主がなく、話合いがうまくやられず、異なった意見に耳を傾けることがうまくやられず、事実をならべて道理を説くことがうまくやられず、頭をはたらかせて問題を考えることがうまくやられなければ、大衆は、自分で自分を教育し、自分で自分を解放することはできず、左派の隊列を発展させ、大多数を結集して、一握りのブルジョア右派を孤立させるという目的を達成することはできず、われわれの偉大な教師――毛主席が提起したプロレタリア文化大革命の路線を忠実に実行することができません。

毛主席は、同志たちが徒歩で革命の交流をおこなうことを支持しています。徒歩による革命交流の長所は、広く大衆と接触し、社会の各方面と接触し、社会主義社会の階級闘争をいっそう深く理解することができることにあります。また、労働者、農民にいっそうよく学び、いっそう広い範囲にわたって毛沢東思想を広めることができることにもあります。この方法をとれば、革命的教員・学生が毛沢東思想をいっそうよく会得し、毛主席の正しい路線をいっそうよく会得するうえで、大いに役立ちます。もちろん、このような徒歩による革命交流は計画的に、組織的に、準備をもっておこなわれなければなりません。

党中央は、プロレタリア文化大革命がすでに数ヵ月の経験をつみあげたので、今後もいっそうりっぱにすすめられ、いっそう大きな成果をかちとるものと信じています。

毛沢東思想の偉大な旗のもとに前進しよう！

毛主席の路線の勝利万歳！

プロレタリア文化大革命の勝利万歳！

中国共産党万歳！

毛主席万歳！　万歳！　万万歳！

毛主席に代表されるプロレタリア革命路線の勝利

『紅　旗』社説

（一九六六年第十四号）

いま、プロレタリア文化大革命はすばらしい情勢にある。その基本的な特徴は、広範な大衆がほんとうに立ちあがったことである。毛主席が、「この運動は規模がひじょうに大きく、たしかに大衆を立ちあがらせており、全国人民の思想の革命化にとって、ひじょうに大きな意義をもっている」とのべているとおりである。

広範な革命的大衆は、毛主席に代表されるプロレタリア革命路線をいっそうよく理解しており、かれらの闘争方向はいっそう明確になり、闘志はいっそう高まっている。かれらは闘争のなかで、毛主席の著作を実際と結びつけて学び運用し、毛主席の著作を学ぶ大衆運動をあらたな高まりにもりあげている。プロレタリア文化大革命の運動は、いっそう深く、いっそう広く、いっそう健全に発展しつつある。

さいきん、広範な大衆は、毛主席の「国家の大事に関心をよせなければならない」という呼びかけにこたえて、プロレタリア文化大革命における二つの路線のたたかいについて真剣に考え、ブルジョア反動路線にたいして大衆的な批判をくりひろげている。このような大衆的な批判は、全国の各省各市、各部門、各学校で普遍的におこなわれている。毛主席の路線にそむくすべての誤り、ブルジョア反動路線のさまざまな表現形態は、みな、

広範な大衆に暴露され、批判されている。

広範な革命的大衆がブルジョア反動路線の批判に立ちあがったこと——これは広範な大衆が真に立ちあがったこと、当面の情勢がすばらしいことの重要なあらわれである。このことは、毛主席に代表されるプロレタリア革命路線が日ましに人びとの心に浸透し、ブルジョア反動路線の破産が宣告されたことを物語っている。

毛主席の正しい路線が直接大衆に把握されるようになったこと、誤った路線にたいする大衆的な批判が広く深くくりひろげられていること、いく億という大衆がこのように国家の大事に関心をよせていること、これはひじょうに良いことである。このことは、プロレタリア文化大革命の指導にたいしてひじょうに理解が足らず、ひじょうに真剣さを欠き、ひじょうに力のいれ方がたりない一部の同志にとって、ひじょうに大きな推進力となっている。このことは、ブルジョア路線を実行した同志が誤りをあらためるうえでも、ひじょうに大きな援助となっている。これは、誤った路線をいちだんと是正し、その悪影響をいちだんと一掃し、プロレタリア革命路線を正しく貫徹し、文化大革命の十六ヵ条を正しく貫徹するうえでもっとも重要な保証である。

二つの路線の闘争は、終始、大衆にたいしてどのような立場に立つか、どのような態度をとるかという問題をめぐってたたかわれてきた。毛主席に代表されるプロレタリア革命路線は、大衆を信頼し、大衆に依拠し、大衆の創造的精神を尊重し、大衆が自分で自分を教育し、自分で自分を解放するようにし、大衆を思いきり立ちあがらせて、資本主義の道をあゆむ党内の一握りの実権派とたたかわせ、社会のあらゆる妖怪変化とたたかわせ、闘争、批判、改革をおこなうというものである。ところが、ブルジョア反動路線はこれとは逆である。この路線を提起した一部の代表者は、大衆が自分で自分を教育し、自分で自分を解放することに反対している。かれらは、

国民党の「訓政」なるものをかつぎだして大衆にたちむかい、大衆をでくのぼう、自分を諸葛孔明と見なしている。かれらは、大衆をおさえつけ、大衆の創造的精神をしめ殺している。かれらは、闘争目標をそらせて、ほこ先を革命的大衆にむけ、革命的大衆を「反革命」、「反党分子」、「右派分子」、「ニセの左派、真の右派」などにしたてあげている。

この二つの路線はまっこうから対立している。一つは毛主席の大衆路線であり、いま一つはブルジョアジーの、大衆に反対し大衆を弾圧する路線である。一つはプロレタリアートの革命路線であり、プロレタリア文化大革命を最後までやりぬく路線である。いま一つはブルジョアジーの、革命に反対する路線であり、プロレタリア文化大革命を正反対の道にみちびき、文化大革命の芽を二葉のうちにつみとる路線である。

うち破らなければ、うち立てることができない。ブルジョア反動路線に反対せず、この誤った路線の影響をとりのぞかなければ、プロレタリアートの革命路線を正しく貫徹することはできない。

ブルジョア反動路線の悪影響をとりのぞくには、多くの仕事をしなければならない。ブルジョア反動路線にはその社会的基礎がある。この社会的基礎は主としてブルジョアジーである。この誤った路線が党内に一定の市場をもっているのは、資本主義の道をあゆむ一握りの実権派が党内にいて、誤った路線を自分の守り札にしているからである。これはまた、世界観が改造されていないか、よく改造されていないおろか者がまだかなり党内にいて、これらの同志が誤った路線から正しい路線にたちもどるにはある過程が必要だからである。

路線の誤りをおかした者については、これを区分すべきである。誤った路線をもちだした者（一、二人または数人にすぎない）と誤った路線を実行した者とを区別し、意識的に実行した者（それは少数である）と無意識的

に実行した者（これは大量である）とを区別し、誤った路線を実行した軽重の程度を区別し、誤りを固執する者と誤りをあらためたいと思い、現に誤りをあらためている者とを区別しなければならない。

一般的にいって、路線の誤りをおかした同志と党との矛盾、大衆との矛盾は、まだ人民内部の矛盾である。これらの同志は誤りをあらため、正しい立場にたちもどり、党の正しい路線を実行することができさえすれば、第二類、第三類の幹部でありうるばかりでなく、第一類の幹部にもなることができる。だが、これらの同志に大きな声でつぎのように警告しておかなければならない。どのような人であれ、過去にどれほど大きな功績があったとしても、もし誤った路線にしがみつくなら、これらの人と党との矛盾、大衆との矛盾の性質は変化をおこし、非敵対性の矛盾から敵対性の矛盾に変わるだろうということ、そうなれば、かれらも反党・反社会主義の道に転落するだろうということである。

誤りをあらためたか、誤りにしがみついているかを区別する目じるしは、大衆にたいする態度である。それは、誤った路線を実行したことを大衆にむかって公然と認めるかどうかであり、「反革命」、「反党分子」、「右派分子」、「ニセの左派、真の右派」にしたてあげられた革命的大衆にたいして、まじめな態度でその処分を取り消し、公開でその名誉を回復し、革命的大衆の革命的行動を支持するかどうかということである。

共産主義者たるものは、路線の誤りをおかしたばあい、誤りをみとめ、誤りを点検し、大衆とともに自分の誤りを批判する勇気がなければならない。毛主席は、「革命に殉じた無数の戦士たちが人民の利益のために命を犠牲にしたことをおもえば、生き残っているわれわれ一人ひとりは胸がいっぱいになるのに、まだ犠牲にしきれない個人の利益、放棄しきれないあやまりがあるというのか」、とわれわれに教えている。

誤った路線を批判するばあい、路線の誤りをおかした同志にたいしては、毛主席が一貫して主張している「前のあやまりを後のいましめとし、病をなおして人を救う」という方針にもとづいて、「思想的にはっきりさせるし、また同志を団結させるという二つの目的を達する」ようにしなければならない。誤った路線を積極的に批判するために立ちあがった革命的大衆、革命的青少年は、みな毛主席のこの教えに心をそそがなければならない。一時的に誤った路線にまどわされた一部の大衆にたいしては、かれらを責めるべきではないし、また、かれらに「王党派」といったたぐいのレッテルをはりつけてもならない。辛抱づよく援助をあたえ、かれらと団結すべきである。

路線の誤りをおかした同志は、大衆の批判には虚心に、真心をこめて、誠心誠意、耳をかたむけるべきであり、毛主席がつねに教えているように、「鼻持ちならぬ気取りをすてて、甘んじて小学生となる」ようにしなければならない。革命的大衆と同じ側に立ち、共同してブルジョア反動路線のもたらした悪影響を一掃しなければならない。大衆の批判のなかにあらわれる一部の行きすぎた言葉ややり方にたいしては、いかなる敵対的感情ももつべきでなく、かれらの大方向は正しいことに目をむけ、かれらの気持ちを理解し、大衆の大多数を信頼し、大衆は条理をわきまえていることを信じるべきである。

誤りをおかした同志は、頭のなかにある多くの「恐ろしい」という気持ちを捨てさらなければならない。これらの「恐ろしい」という気持ちは、とどのつまり、大衆を恐れ、革命を恐れることにほかならない。毛主席の指示にもとづいて、「恐ろしい」ということにきりかえ、「私」ということを「公」ということにきりかえ、「自己を信じる」ということを「大衆を信じる」ということにきりかえるべきである。こうしてはじめて、誤りをあらため、受動性を能動性に変え、毛主席の路線にしたがって、プロレタリア文化大革命を指導することができるのである。

革命をすることを望むすべての同志よ、われわれは偉大な毛沢東思想の旗のもとで、毛主席に代表されるプロレタリア革命路線の基礎のうえに団結し、プロレタリア文化大革命を前むきにおしすすめようではないか。

新たな勝利をたたかいとろう

『紅　旗』社説

（一九六六年第十五号）

規模のひじょうに大きなプロレタリア文化大革命の運動が、毛主席に代表されるプロレタリア革命路線にみちびかれて、ブルジョア反動路線の妨害をつき破り、より深く、より広い方面にむかって発展しつつある。現在の情勢の重要な特徴は、広範な革命的労働者大衆がたちあがって、プロレタリア文化大革命の運動に身を投じ、革命的学生と労働者大衆の結合に新たないとぐちが生まれたことである。

毛主席をはじめとする党中央のプロレタリア革命路線に反対することを目標とするブルジョア反動路線は、すでに広範な革命的大衆によって見破られている。誤った路線をおしすすめた一部の同志は、自己の誤りをあらため、正しい路線にたちもどりつつある。ブルジョア反動路線をあくまで固執しているごく少数のものは、ますます孤立の度を深めている。革命的左派の隊列は、ひじょうに大きく発展し、強大化し、その意識は高まっている。

広範な革命的大衆は、いま、あらゆる障害物をとりのぞき、毛主席がみずからきりひらいたプロレタリア文化大革命の道を大またで前進している。

資本主義の道をあゆむ党内の一握りの実権派、ブルジョア反動路線をあくまで固執するごく少数のものは、けっして自分の失敗に甘んじてはいない。かれらは、誤った情勢判断をしている。かれらは、いまなお、新しい手口をもてあそび、新しい方式をとって大衆をあざむき、ひきつづき毛主席に代表されるプロレタリア革命路線に対抗している。広範な革命的大衆がブルジョア反動路線に断固として反対しているため、一部の下心のあるものもまた、「ブルジョア反動路線反対」というスローガンを利用して人をあざむき、世間の耳目をまどわしている。だが、かれらは、実際には、革命的左派を攻撃し、プロレタリアートの司令部を砲撃しているのである。広範な革命的大衆がプロレタリアートの司令部を砲撃することに断固として反対しているため、一部の下心のあるものもまた、「プロレタリアートの司令部への砲撃反対」というスローガンを利用して革命的大衆をおさえつけ、ブルジョア反動路線にたいする大衆の批判をさまたげている。

ブルジョア反動路線に真の批判をしているのか、それともブルジョア反動路線にみせかけの批判をしているのかは、かれらの実際行動を見なければならない。一部のものは路線の誤りを犯しながら、真剣に公開で自己批判をおこなわず、文化大革命のなかで、かれらによって「反革命」、「反党分子」にされた革命的大衆のえん罪をそそいでやろうともしない。かれらはなおも硬軟両様の方法を用いて大衆にたちむかい、ひきつづきかれらにまどわされている大衆を組織して、革命的左派に打撃をあたえている。かれらは、是非を転倒させ、ブルジョア反動路線の罪名をプロレタリア革命派にかぶせて、かれら自身をかばい、資本主義の道をあゆむ実権派をかばおうとくわだてている。こうした連中は、ちょうど魯迅がいったように、「偉大な旗を虎の皮として自分にまとい、他人をおどしあげる」ものである。

わが党は、たとえだれであろうと、「ブルジョア反動路線反対」の名をかたって、革命的大衆に打撃をあたえたり、プロレタリアートの司令部を砲撃したりするのを断じて許さない。

プロレタリアートの司令部とはなにをいうのか。それはほかでもなく、毛主席をだんこ擁護し、毛沢東思想をだんこ擁護するものであり、毛主席に代表されるプロレタリア文化大革命の正しい路線をあくまでおしすすめ、プロレタリア文化大革命の十六ヵ条をあくまで擁護するものであり、反革命修正主義にだんこ反対するものであり、ブルジョア反動路線にだんこ反対するものである。

闘争のほこ先をどこにむけるか——これは原則にかかわる重要な問題であり、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想の原則的な問題である。闘争のほこ先を資本主義の道をあゆむ党内の一握りの実権派にむけるのでなく、革命的左派にむけ、しかも一部の大衆をあざむき、まどわして自分をまもらせ、大衆をそそのかして大衆とたたかわせる——これがブルジョア反動路線の典型的な表現である。どのような形式をとったとしても、工作組を派遣したとしても、工作組を派遣しなかったとしても、工作組を引きあげたとしても、このような反動的な方針や反動的な政策をとるかぎり、それはブルジョア反動路線の誤りを犯したことになる。問題は、工作組という形式にあるのではなくて、どのような方針、どのような政策を実行したかにある。一部の単位は、工作組が派遣されず、従来の責任者によって指導されたが、それでもやはり同じような誤りを犯した。また、一部の工作組は、毛主席の正しい方針、政策をとり、実行したので、誤りを犯さなかった。

大衆を抑圧する司令部、そのような司令部をプロレタリアートの司令部といえるだろうか。それを「砲撃」してはいけないといえるだろうか。

わが党は、たとえだれであろうと、「プロレタリアートの司令部への砲撃反対」に名をかりて、革命的大衆をつるしあげたり、革命をおさえつけたりすることを断じて許さない。

いま、資本主義の道をあゆむ党内の一握りの実権派、ブルジョア反動路線をあくまで固執するごく少数のものには、つぎのような特徴がある。自分は舞台裏にいて、かれらにまどわされている学生の大衆組織や労働者の大衆組織をあやつり、挑発や離間をおこない、分派をつくりあげ、武闘をひきおこし、ひいてはさまざまな不法手段を用いて革命的大衆にたちむかう、というのがそれである。しかも、こうした連中自身は、「高みの見物」をきめこんでいる。かれらは、このような手口で、プロレタリア文化大革命を破壊しようとたくらんでいるのである。

かれらは、このようにやることが得策だと考えているが、実際には、愚劣きわまるものである。かれらは、かならず石を持ちあげて、自分じしんの足を打つこととなるであろう。一時かれらにまどわされている一部の大衆も、プロレタリア文化大革命の過程で、かならず自覚し、かれらを暴露し、かれらに反対するであろう。大衆の圧倒的多数は、結局はよい人びとであり、党を擁護し、毛主席を擁護する人びとである。一時まどわされている大衆も、陰謀をおこない、術策をもてあそび、プロレタリア文化大革命に反対している一握りの連中の正体をひとたび見きわめると、ただちにかれらを見すてて、毛主席をはじめとする党中央の正しい路線の側に立つようになるであろう。

毛主席はわれわれに、文闘をおこなうべきで武闘をおこなうべきではない、と教えている。われわれは、毛主席の話を聞き、あくまで毛主席のこの指示どおりに事をはこばなければならない。文闘を堅持し、武闘を許さな

い――これはプロレタリア文化大革命のきわめて重要な政策の一つである。この政策は、プロレタリアートにとって有利であり、革命的大衆にとって有利である。文闘を堅持し、大衆の間で武闘を挑発する悪質分子にだんこ反対しなければ、プロレタリアート独裁のもとでの大民主の実現を保証することはできず、大鳴、大放、大字報、大弁論の正常な実行を保証することはできず、人民大衆の民主的権利を保障することはできない。

資本主義の道をあゆむ党内の一握りの実権派、ブルジョア反動路線をあくまで固執するごく少数のものが故意に事件をひきおこし、武闘を挑発しているのは、人民大衆の民主的権利をふみにじるためであり、プロレタリアート独裁の破壊、プロレタリア文化大革命の破壊をくわだてるためである。すべての革命的大衆と革命的組織は、警戒心を高めて、その手にのらないようにしなければならない。異なった意見があれば、事実をならべて道理を説くという方法で討論をおこない、毛沢東思想の偉大な旗のもとに、また文化革命の十六ヵ条を基礎として団結し、心を合わせ力を合わせて、プロレタリア文化大革命を最後までおしすすめなければならない。

前段階で路線の誤りを犯した同志たちは、真剣に誤りをあらため、誤った路線とはっきりと一線を画し、毛主席に代表されるプロレタリア革命路線にたちもどらなければならない。

真剣に誤りをあらためるには、つぎのことをやらなければならない。それは、（一）大衆のまえで、誠意をこめて率直に自己批判をおこなうこと、（二）プロレタリア文化大革命のなかで、指導者を批判したため「反革命」、「反党分子」、「ニセの左派、真の右派」、「野心家」などにされた革命的大衆にたいし、真にえん罪をそそぎ、かれらの名誉を回復すること、（三）誤った路線にまどわされている大衆と幹部にたいしては、政治・思想工作をおこない、誤りを大衆におしつけたり、下級におしつけたりするのでなく、自ら責任をとり、誤りを

犯した自分の切実な体験をもってかれらが認識を高めるのを援助し、広範な大衆と団結すること、（四）大衆のなかにはいり、大衆に学び、大衆の小学生となり、大衆とともにブルジョア反動路線を批判し、ブルジョア反動路線のもたらした悪影響をとりのぞくこと、（五）口先だけでなく実際行動で、毛主席に代表されるプロレタリア革命路線をおしすすめ、断固として革命的左派を支持し、広範な大衆に依拠して、あくまで資本主義の道をあゆむ党内の一握りの実権派に打撃をあたえることである。

われわれは、広範な革命的大衆が情理をわきまえており、事実にもとづいて真理を求めるものであることを信じている。前段階で路線の誤りを犯した同志たちも、以上いくつかの点をやりとげさえすれば、広範な革命的大衆の了解をかちとり、あらためて大衆の信頼を獲得することができ、受動的な立場を能動的な立場にあらためることができ、プロレタリア文化大革命の工作およびその他各種の工作をりっぱにおこなうことができるのである。

もしも、このようにしないで、誤った路線にそって歩みつづけるなら、没落しないわけにはいかない。

わが国のプロレタリア文化大革命が大規模にくりひろげられてから、すでに半年たっている。この半年の間に、きわめて大きな成績がかちとられ、豊富な経験がつみあげられた。そして、どの革命家もそのなかから、ひじょうに大きな教訓を得ることができる。レーニンは、「革命の時期には、幾百万幾千万の人びとが、普通の、ねむったような生活の一年間に学ぶよりも多くの事がらを、一週間のうちに学ぶものである。なぜなら、全人民の生活が急激に転換するさいには、人民のどの階級がどういう目標を追求しているか、どのような力をもっているか、またどのような手段によって行動するかが、とくにはっきりとわかってくるからである」とのべている。

われわれは、毛主席の正しい路線を指針とし、階級闘争をかなめとし、階級分析の方法を用いて、各種の現象を研究し、当面の文化大革命における各階級の動きを分析し、かれらがどのような手段をとって活動をすすめているかを研究しなければならない。

プロレタリアートの革命派は、いちだんと毛主席の著作を実際と結びつけて学び運用し、指導の中核を強化し、向上させ、闘争の芸術をいちだんと高めるべきである。また、調査研究を強化し、政策を身につけ、活動方法に注意し、事実をならべて道理を説くことに長じ、異なった意見をもつ大衆と問題を相談したり、討議したりすることに長じ、広範な大衆と団結することに長じなければならず、路線の誤りを犯した同志たちが誤りをあらためるのを歓迎しなければならない。こうしてはじめて、資本主義の道をあゆむ党内の一握りの実権派を最大限に孤立させ、すさまじい勢いのプロレタリア文化革命の大部隊を結成して、新たな勝利をたたかいとり、毛主席のわれわれにあたえた偉大な歴史的任務を達成することができるのである。

中国のプロレタリア文化大革命（第八集）

1967年　初版　　定価30円

出版者　外文出版社
（北京　阜成門外百万莊）

発行者　中国国際書店
（北京 P. O. Box 399）

編号：（日）3050—1598　　3—J—720P
00016